

「唐丹希望基金 2016」EEC 通信 71 号
2016-6

高館 千枝子「鎮魂の歌 巡礼の旅」へ

<https://www.youtube.com/watch?v=o0s7ZZU9T8M>

2016年3月3日「NHK ラジオ深夜便/明日へのことば ～世界へひろがれ鎮魂の歌～」に出演し「唐丹希望基金を立ち上げた想い」を世界に発信する機会に恵まれ、新たな想いが生まれました。

それは「鎮魂の歌 巡礼の旅」です。

これまでの5年間、多くの方が岩手県釜石市唐丹町を訪問し、唐丹小中学校の子供たちと交流していただきました。そのうえ、教育支援のための募金をしていただいた感謝を、今度は、私が皆様のところへ赴き、自分の言葉で伝える時を迎えたのだと感じたのです。

これが、欠かさず募金して下さった方、「鎮魂の歌」を世界に向けて発信するために労を惜しまず尽力して下さった方、そして、私の想いをしっかり受け止め、つたない言葉を組み立てて番組に下さった坂口憲一郎さんへの感謝の示し方ではないかと考えました。

「鎮魂の歌 巡礼の旅」の相棒  と共に出発です。

今後の3年間で、どれだけの方にお目にかかれるか分かりませんが、できるだけ多くの方々と「鎮魂の歌」を一緒に歌い、これまでの様々なエピソードを語り合う時を過ごし、2020年3月末「唐丹希望基金 2011-2020」解散の締めくくりに繋げたいと思います。

5月3～5日「鎮魂の歌 巡礼の旅」京都亀岡

第22回 全国愛善歌奉納大会

特プログラムの演奏には牧野先生はじめ、高館さん、嶋澤さんにお越しいただき感謝しています。(嶋澤さんにもどうぞよろしくお伝え下さい。)この歌がここまで人を寄せるのかという印象強く、私の生涯に思い出深いものとなるでしょう。つたない指揮では、180人をまとめるきれず無我夢中。気づけば翌日は(野点席水屋にてひたすら茶筌を振っていました)筋肉痛でした。ともあれおかげさまで無事に終えることができ、ほっとしています。先生もお疲れが出たのではないのでしょうか? ラ・チエーロは、6月、7月の次の本番のため、今日から練習です。



思いおこせば昨秋、しあわせと花の分科会のため急遽参加することになった仙台日本大会。その時、失礼ながら、鎮魂はついで程度に参加、一度は過ぎ去ったと思っていました。正直「東日本大震災犠牲者に捧げる…ふ～ん」という程度でした。その伴奏譜のコピーをうちのピアニストが深い理由もなくいただいて帰ったのでした。そして節分大祭の日(2/3)に、3/11 東日本大震災 5 年の綾部本部における慰霊祭に際して復興に関する歌と大本の愛善歌をとの依頼があり、私の中で鎮魂の歌がちょうどぴったりふさわしいとの思いで、迷いなく即決しました。歌詞が強烈で選曲をやり直しになりそうにもなりながら、なんとかこぎ着けました。慰霊祭前夜は犠牲者とその家族の思いに本気で近づき、何とも言い様のない切なさにお腹の中が振れるようでした。奉納大会にも東日本大震災 5 年の特別プログラムが組まれることになり、これまた即決。この歌との強い縁を感じました。 大本本部 齊藤 保子

全国愛善歌奉納合同演奏「鎮魂の歌」

金原 恵美子 (宮城県富谷町)

ここ東北の地にも色とりどりの花々が美しく咲き匂い、明るく輝いた季節になって参りました。

先日、愛善奉納大会には遠路亀岡まで足をお運びいただきましてありがとうございました。牧野先生とご一緒に私達に寄り添って下さいまして、どんなにお疲れになられたのではないのでしょうか。

私は「鎮魂の歌」を伴奏させていただきました金原恵美子(かなはら えみこ)と申します。

大変お世話になりまして有難うございました。「鎮魂の歌」との出会いは、昨年 10 月のエスペラント仙台大会で牧野先生のご指導をいただいたのが初めてでした。何よりも歌詞の言霊に心が動かされました。言葉一つ一つが 5 年前の映像と重なり、鮮明に蘇って来て、涙を抑える事ができませんでした。メロディーが言葉を上手に引き立てていて、相方がうまく絡み合っていて、魂に響く素晴らしい作品に仕上がっているのだと思わせて頂きました。

エスペラント大会でご指導いただいた後、この度、指揮をして下さいました齋藤さんとお話しさせていただく機会がありまして、その時、是非、奉納大会で歌わせていただきたいとお話ししましたら、本当に実現しまして大変嬉しく思います。

5 月 3 日に牧野先生にご指導をいただきまして、又、曲の奥深さに前回とは違った感動を覚えました。表現の違いで伝わるものが、全く変わってくるという事も実感いたしました。それは震災を体験したものとして、被災された皆さんの状況が分かり、いろんな事柄を受け入れることが出来る、広い心をいただけたからこそ、体験させていただけたのだと思います。

奉納大会当日は、声の迫力に圧倒されました。所狭しと並んだ大勢の皆様(180人)の中で、歌わせて頂いたことに感動された方が、沢山いらっしゃいました。又、歌いながら涙が出ましたとおっしゃって下さっ



た男性の方もいらっしゃいました。牧野先生、高館さんとの出会いを頂きました事、又、「鎮魂の歌」と出会わせていただき奉納をさせて頂きました事に心より感謝申し上げます。

震災から5年が経過し、この間、たくさんの方々との出会いをいただき、多くの大切なことを学ばせていただきました。どれを取っても、大変、貴重な事ばかりで私にとって大きな、大きな宝物となりました。これからも、いろんな出会いをいただきながら成長したいと思っています。

今、私は子供達のピアノ教室を開いています。子供達からたくさんエネルギーを頂ながら、日々、元気に過ごしております。健康で生涯現役を目指して、明るく輝いた日々を過ごして参りたいと思っています。どうぞ、これからもよろしくお願い申し上げます。又、お会いできる日を楽しみに致しております。

5月5日「鎮魂の歌 巡礼の旅」岡山県備前市

備前・須恵器 ハソウを訪ねて

坂口憲一郎さんが取材で我が家を訪問下さった時に話した「備前・須恵器ハソウ」がどんな物なのかを知りたくて、備前伊部にお住いの好本さんに電話でお聞きした言葉が、ずっと心に残っていました。

「坂口さんは単なる取材だけで矢巾を訪問したりはしないと思います。鎮魂の歌への深い思いを抱えて高館さん取材したと思います。坂口さんは、どなたに対してもそういう態度で臨む方ですヨ。」このように教えて下さった、好本さんに会いに行くことにしたのです。

私は京都亀岡に行く前に岡山市に住む坂口さんに、備前の好本さんへご案内いただけるか相談しました。すると、以下のメールが届き、10月16日に予定している「鎮魂の歌と共に楽しむハソウ」会場の備前市を坂口さんのご案内で訪問することにしました。

<4月27日に届いた坂口さんのメールから>

備前がどんな所で、備前焼の仕事、好本さんの作品などを見て戴け、10月の備前焼祭りの参考になるのではないかと思います。京都から岡山までが1時間、うまくいけば備前まで2時間半でたどり着けると思います。帰りの岡山―東京は、うまくいけば、3時間半くらいかと思えます。正確に時刻表を調べなければなりません、何とか備前に来ていただければありがたいと言っていました。もちろん好本さんの奥さんは、どうしてもという事であれば、岡山に出てくることも何とかするといってくれていました。もちろん備前に行く場合は、私のご案内するつもりです。京都を9時33分―岡山着10時36分 赤穂線10時56分―伊部（備前市）11時34分着 帰り 14時13分―15時02分岡山着 新幹線15時16分岡山―東京18時33分着となります。19時くらいの東北新幹線があればいいと思いますが、連休中なので新幹線が混んでいなければいいのですが。かなり強行軍ですね。以上です。ご検討ください。（坂口）

メールに書かれている通りの京都→岡山間の新幹線のチケットを入手すれば、10月のイベント会場の下見の絶好のチャンスと思い、すぐ、チケットを買いに駅へ行きました。連休中の混雑にも関わらず、チケットが買えたのです。

岡山駅から備前の往復3時間の滞在中に、最も知りたかった一つの奇跡、「赤穂線の中で出会った3人の女性」について坂口さんから聞くことが出来ました。

ある日、坂口さんは備前に行くため赤穂線に乗ったそうです。4人掛けの椅子に3人の女性が座っており、その空席に腰を下ろし、女性たちが 何やら楽しそうに話している話に耳を奪われ「楽しそうですね。何のお話をなさっているのですか？」と尋ねたところ、東京でエスペラント大会があり、それに出席することを楽しみに待つ喜びや期待など様々な事を聞いたそうです。その話に登場した中心人物が堀泰雄さんだったそうです。

坂口さんが上京した時、エスペラント大会の会場に行き堀泰雄さんと会い、話を聞いているうちに、堀さんの活躍の素晴らしさを知り、ラジオ深夜便への出演の依頼をしたのだそうです。

2015年1月7日放送「ラジオ深夜便明日への言葉～言葉が広げる世界の絆～」

<http://esperas.info/index.php?QBlog-20150107-2>

なんと、その1年後、今度は、高館千枝子と同じ番組に出演したのです。

2016年3月3日放送「ラジオ深夜便明日への言葉～世界へ広がれ鎮魂の歌～」

<https://www.youtube.com/watch?v=o0s7ZZU9T8M>

そして、今、私は坂口さんの案内で備前に行こうとしています。世の中にこんな奇跡があるのかと思うほど、不思議な出会いが現実起きています。しかも、この物語は、これで終わりではなく続きがあるのです。

私のラジオ出演が岩手県の話にもなり、坂口憲一郎さんと私が盛岡のお寺、長善寺仏教婦人部研修「東日本大震災を想う」の講師に依頼されたのです。それぞれ30分程度の講演後、「鎮魂の歌」を参加者と一緒に歌うという趣向です。

盛岡のお寺で、「鎮魂の歌」1番だけでもエスペラント語で歌いたいと思い、京都亀岡訪問の時、「鎮魂の歌」の歌唱指導の為出席していた牧野三男さんから鎮魂の歌をエスペラント語で歌えるよう、2時間のレクチャーを受けました。また、歌の中で、坂口さんが「備前・須恵器のハソウ」を吹いて下さることになっています。次のイベントは10月16日に備前を会場に行われる「鎮魂の歌と共にハソウを楽しむ会」です。その会場の下見とハソウの響きを確認するために、今回、備前を訪問したのです。

<備前でハソウの響きを聞いて>

ハソウの音を聞いたのは2度目です。

最初は、4月3日訪問の京都の「Kinko Music : FAMILY CONCERT 2016」でした。この時は坂口さんがハソウを持っての飛び入り参加でした。リハーサルも打ち合わせもせず、吹いたハソウの音はピアノに消され存在感を感じることが出来ず残念でした。

好本さんの工房では3人が別方向に立ってハソウを吹きました。響きの異なる3人のハソウは音が振動し合って大きな響きになるではありませんか。私の体にもハソウが振動し、不思議な気持ちになってきました。ハソウは「鎮魂の歌」と共に、津波の犠牲になって亡くなられた人の鎮魂のため奏でられて行く事でしょう。



【佐伯さん・好本さん・坂口憲一郎さん：好本宗峯さんの工房で】

5月8日「鎮魂の歌 巡礼の旅」神奈川県逗子市

「逗子フラワー合唱団演奏会」

昨年秋だったと思う。何の面識もなかった飯塚三枝子先生から電話を頂戴し、少し、戸惑いながら話したことを思い出しています。

内容は、逗子フラワー合唱団は毎年子供達へピアノを贈るチャリティーコンサートを行っており、2016年5月のチャリティーコンサートは、唐丹小中学生へピアノを贈りたいと考えているので、学校に伝えてほしいという内容でした。話しているうちに、横浜エスペラント会の根岸幸子さんが、逗子フラワー合唱団の知り合いに「鎮魂の歌 10,000人普及活動をしているので歌ってほしい」とお願いしたとのメールがあった事を思い出したのです。鎮魂の歌と横浜エスペラント会が面識のない逗子フラワー合唱団 飯塚三枝子先生と引き合わせ、唐丹小中学校の子供達へピアノを贈っていただく事になったのです。

4月から「鎮魂の歌 巡礼の旅」を計画したので、5月のコンサートに参加してお礼のご挨拶をしたいと思い、3月下旬、演奏日時、演奏会場をFAXで問い合わせました。

その後、飯塚先生から電話で「もう少し経ちますと、プログラムが出来上がりますので、そうしたら郵送します。」とお返事を頂き、2016年の「鎮魂の歌 巡礼の旅」計画を練りながら、訪問する日を待っていました。この間に横浜エスペラント会根岸幸子さんを中心に私を演奏会前の昼食会での歓迎会の計画が進められておりました。横浜エスペラント会 牧野三男さんは、鎮魂の歌の推進普及活動を始めた2012年9月から、楽譜のホームページ掲載、各種鎮魂の歌 YOU TUBE 投稿、横浜少年少女合唱団による「氷川丸・鎮魂の歌演奏会」をはじめ、各地エスペラント大会での「エスペラント 鎮魂の歌」の指導等、鎮魂の歌推進の為、ありとあらゆる事を中心人物です。牧野さんは、「鎮魂の歌」のエスペラント訳を小西岳さんにお願ひし、その3日後には「エスペラント鎮魂の歌」の楽譜が出来上がったそうです。鎮魂の歌を通じて深い関係を持った横浜エスペラント会の皆様との昼食時間はとても楽しく、和やかな1時間半でした。



☆2016年5月8日 横浜エスペラント会有志の皆様との昼食会写真集（撮影：大場満）

このアルバムには10枚の写真があり、2016/08/07までOneDriveで利用できます。

<https://onedrive.live.com/?authkey=%21AHBJemRMUR563K4&cid=C82C7447FBC2EC62&id=C82C7447FBC2EC62%2110149&parId=C82C7447FBC2EC62%2110148&o=OneUp>

東京音大生、OB、フラワー合唱団による
第10回ピアノと歌と楽器と合唱の

楽しいチャリティーコンサート

前回のコンサートまで岩手県宮古市、山田町、大槌町、陸前高田にピアノを贈ることが出来ました。ピアノのおかげで子供さん達が笑顔を取り戻しています。有難うございました。今年も唐丹（とうに）小中学校にピアノを贈ります。

私は、逗子フラワー合唱団演奏会場に溢れる優しさと和やかな雰囲気、かつて、デンマークで経験した「ノーマライゼーション」の空気を感じていました。

飯塚三枝子先生の開会の挨拶です。

「あるお母さんから障害を持っている子供は音楽会に行くことが出来ず、とても残念でならない。障害児はとても音楽が好きなのに、急に奇声を発したりするので音楽会では受け入れてもらえない。こんな現状を解決するために、どんな子供でも音楽を楽しめる音楽会を16年前から行ってきました。この会場でも、奇声を発するかも知れませんが、優しく見守ってあげてください。この演奏会が無料なのは、演奏中に奇声を発しても平気、安心して音楽を楽しめるようにするためです。ゆっくりした気持ちでお過ごしください。」

逗子フラワー合唱団演奏会では、コンサートに出演した音楽家達全員でお金を出し合い、その募金も行って、そのお金で子供達へピアノを贈り続けて来ました。特に東日本大震災後からのピアノの贈り先が、被災地岩手県三陸の子供達へ贈られてきたことを、パンフレットの説明で初めて知りました。

コンサートの最後のプログラムは「みんなでうたいましょう」でした。

これは、良く取り上げられるプログラムで、多くてもせいぜい2、3曲全員で歌って終演となるのが常です。このコンサートでは沢山の曲を次々30分以上も歌い続け、ステージに上がった障害を持つ子供たちは、いよいよ楽しさを増し、飯塚先生も会場に降りてきてマイクを多くの人に渡し、歌を楽しんでもらおうとしていることが伝わってくるのでした。コンサートの本当の狙いは、最後のこのステージにあったのでは……？と思いながら岩手に帰った翌日、飯塚先生から電話を頂戴した時訊ねました。「先生のコンサートの狙いは最後に子供達をステージに上げ、思いっきり音楽を楽しんでもらおうと考えていたのではありませんか？」と。「その通りです。子供達はのびのびと大きな声で歌っており、今年も皆さんと一緒に音楽を楽しむことができました。」とお聞きし、厳しい音楽の道を歩んでこられたであろう飯塚先生が、16年前から、障害があっても音楽を楽しめる為に、演奏中に奇声が聞こえても、会場の外に出なくても済むよう「入場無料」にして、高レベルの演奏家たちの生の音楽を提供するのが飯塚三枝子先生のコンサートへの思いだった事を知り、目頭が熱くなってくるのを抑えきれませんでした。

この会場には、差別も偏見もない「ノーマライゼーション」の空気が流れていたのです。人々の優しい眼差しに溢れ、安らぎがあり、子供達は愛されている安心と信頼感を全身で表現し、その

姿はとても美しく、愛で満ち溢れていました。かつて、訪れたデンマークの訪問先のいたるところで感じた爽やかな空気、優しい風を感じながら、「こんな生き方をしたい」と思っていた自分を思い出し、そのころの私に再会した事は、唐丹の子供達に支えられながら「真の生き方」を考え続けることを、改めて誓う機会が与えられたのだと感じ、これからの「唐丹希望基金」の4年が短くさえ感じられます。

H・E・バンクミケルセン提唱の「ノーマライゼーション」（知的障害者の生活条件を可能な限り、ノーマルな生活条件に近づける）は、世界で最も住みやすい国と言われるデンマークで生まれ育ち、世界中に広まっている福祉に対する考え方です。まさか、このコンサートで「ノーマライゼーション」を感じることは想像すらしていなかっただけに、逗子フラワー合唱指導の飯塚三枝子さんの成熟された思想に触れ心から感動し、感謝の気持ちで帰宅しました。



【左から 松本はるこさん、逗子フラワー合唱団指導者 飯塚三枝子さん、高館千枝子】

☆2016年5月8日 逗子チャリティーコンサート写真集（撮影：大場満）

このアルバムには7枚の写真があり、2016/08/07までOneDriveで利用できます。

<https://onedrive.live.com/?authkey=%21AL%2DxQ0iXSLYa9uw&id=C82C7447FBC2EC62%2110163&cid=C82C7447FBC2EC62>

愛知県半田市での昼食会

ほりやすお

3月3日に、NHKラジオ深夜便で、わが「唐丹基金」代表の高館千枝子さんが登場して「世界へ広がれ『鎮魂の歌』」を語った。震災から半年も経つと、寄付金の額もがくんと減って、大ぶろしきを広げて募金活動を始めた高館さんは、自分の無力さに打ちひしがれて、ノイローゼ状態になった。そんな時に「鎮魂の歌」ができたことを知って、お金で支援ができないならば、せめてこの歌で支援しようと決意した。目標を「1万人が歌い、聴く」と定め、この4年間で既に9000人に届きつつある。

歌は、私がエスペラントで世界に紹介したため、カナダの大正琴の先生から京都の大正琴の先生へ、またハンガリーでは地元のコーラスグループが歌うなど、本当に運動は世界に広がって行った。寄付金集めの方も、私が昨年「ラジオ深夜便」に登場したこと、同じディレクター坂口さんの手で今年は高館さんが登場したこと、その他さまざまな仕掛け（その中には、私の「エッセー」や「震災関係の写真集」の出版、「唐丹だより」の送付なども）のおかげで、小学校の卒業生には7万円、中学校の卒業生には12万円という目標も、2020年までやれそうな展望も見えてきた。それで、高館さんも元気を取り戻し、今では「高館千枝子巡礼の旅」と銘打って、お世話になった人々を訪問して、更に運動を盛り上げようと、意気盛んである。私もそれにならって、今回は「愛知県半田市で昼食会」を計画したのである。

榊原さんとの出会い

知多半島との最初の出会いは、もう30年ほど前になる。榊原紀子さんという女性が、前橋第九合唱団の公演に来たことが最初である。前橋第九合唱団は、1973年から第九を歌いはじめ、それから10年ほどたったころ、私は合唱団の団長をしていた。そして、渡辺暁雄さん、小林研一郎さんを指揮者に迎えたころには300人を超える団員を抱えた大合唱団に育っていた。その運動の中で起こる様々なことを書いて、三友社出版という英語教育の出版者から出したところ、音楽関係では稀だと言われた5000部が出る大ヒットとなった。当時半田市でも第九を歌おうか、という機運があり、その中で榊原さんが見つけたのが、私が書いた「歌え我らの第九」だったのだ。彼女は、前橋の公演を数回聞きに来た。しかし、その後私が合唱運動と離れたこともあり、交流は途絶していた。



伊藤さんとの出会い

私は 50 歳で教員をやめて、その三友社で働き始め、東京で教科書の編集などをしていました。その時の教科書の編集委員に知多半島に拠点を置く日本福祉大学の英語の先生がいて、私は非常勤講師に招かれ、8 年ほど知多半島の真ん中あたりの美浜町というところで働くことになった。2 日間授業をして家に帰るという生活で、この間とても楽しい、充実した最後の教員生活を送った。その時に、常滑の伊藤さんと出会った。ご夫婦とお嬢さんの家庭で、私はなぜかとても伊藤さんの家が気に入り、また伊藤さんの家族にも気に入られたこともあり、大学を辞めてからも、機会があるたびに訪問して一泊するということになった。娘や息子の家にも余り泊まったりしないのに、他人の家にこんなふうに出入りするというのは、考えられないことだったが、そんなことが今でも続いているのである。

柴田さんとの出会い

10 年ほど前、まだ日本福祉大学に勤めていた頃、ふらふらと半田の町を散策していて、「半田物産館」という名前だけは立派だが、木造平屋の壊れそうなお店に、なぜか入ってしまった。主人はずいぶんおしゃべりで、それにのせられ、半田絞りのシャツを 9000 円かで買ってしまった。半田は、有松や鳴海と同じ地域に属し、昔は絞りで有名だったという。今でもその名残があるらしく、そのシャツは地元で作ったものだった。「高いシャツを買わされたな」と思ったが、着心地がよく、その後最近まで、いつもそれを着ていた。しかし、ついに襟はぼろぼろになり、腕のところが裂けてしまった。「あの店を探して、新しいシャツを買うか」と思い立ち、昨年夏、伊藤さんと一緒に半田市を訪問してみた。そして驚いたことに、10 年前と同じたたずまいでお店は残っていて、同じ主人が顔を出したのだ。

主人の柴田さんは、私が群馬から来たことを知ると、ことのほか喜んだ。というのは、戦争中半田市には、群馬に本社がある中島飛行機の工場があったからだ。戦争に勝つためには、飛行機の増産が急務で、半田に広大な工場が建てられた。ウィキペディアによると、「1945 年 2 月の半田製作所の総従業員数は 28569 人であり、そのうち学徒数は約 12000 人」で、そこへは生徒も動員された。1945 年 7 月 24 日、米軍は B 2 9 による空襲を、この中島飛行機の工場に対して行った。これによる死者は、愛知県警察史によると 134 人、うち学徒 20 人だった。そして、柴田さんの、当時中学 2 年生だった姉は、その中のひとりだったのだ。私が訪問した日に、ちょうど「半田空襲慰霊祭」を知らせる葉書が届いたこともあり、群馬からの私の訪問は、とてもうれしかったようだ。

柴田さんの身の上も、20 日の昼食会で聞くことになったのだが、柴田さんは、2 歳半で、東京大空襲を生き延びたのだ。当時柴田さんの両親は、東京で呉服屋を営んでいた。父は、警防団の団長をしていたので、東京大空襲が始まると家を飛び出し、任務の遂行に当たったが、そのまま帰ることはなかった。母は、もうここで死のうと、近所の洗足池に首までつかって空襲の夜を過ごした。朝になると周りには死体が浮かんでいた。母は、柴田さんをおんぶしていたことを思い出し、手を背中に伸ばして叩いたが声がない。おんぶ紐を緩めて顔を向けさせ頬をたたくと「うう」と声を出したという。半田で亡くなった姉は、当時は学童疎開で別のところにいたので助かったが、その後母は実家のある半田に移り、家族一緒に住もうと姉を呼び戻し、一緒に住みだしたところで、半田の空襲で、その姉は亡くなってしまった。「死なせるために呼び寄せたようなものだ」と母は死ぬまで悔やんでいたという。

内藤さんとの出会い

榊原さん、伊藤さん、柴田さんと、親しい関係ができていたところへ、今度は内藤さんという女性が現われた。内藤さんは、東日本大震災のあと、「家に余っている食器などを送りたい」と毎日新聞の「希望新聞」というページに出したところ、何と唐丹中学校のすぐ下で美容院をやっている女性からほしいという申し出があったというのだ。そんなこともあり、私の「ラジオ深夜便」の中で「唐丹」という名前を聞くや、唐丹支援を申し出てきた

のだ。内藤さんは、実に行動的な女性で、私が、榊原さんの連絡先を探しあぐねていたなら、「多分半田高校の卒業生ではないか」と目星を付けて探し出してくれた。半田物産館も訪問し、柴田さんとも仲良くなってしまった。

こうして昼食会へ

こんなふうに、人のつながりが不思議に広がった。5月18-19日に、私は富山市の老人ホームに入っている叔母を訪問する用事があったので、全線を踏破したことがない高山線に乗って名古屋まで行き、伊藤さんを訪問しようと思いつき、それなら、半田で昼食会をやることを思いついた。伊藤さんは都合で参加できなかったが、榊原、柴田、内藤さんに加えて内藤さんの友だちの長坂さんも入って5人で、半田の旧家を利用したレストラン「半六茶屋」で会食した。それぞれが、第九の話や、戦争の話、唐丹とのかかわり、半田の歴史など、食事をしながら2時間近く話し合った。その後は、柴田さんの案内で、その周辺の古い街並みや神社などを訪問した。また抹茶を柴田さんがおごってくれたりもした。前橋まで帰らなければならないと、私が皆の話の腰を折ったのは、会食が始まって3時間半以上たった3時半過ぎだった。

私は、震災の支援を具体的にすることも大切だが、その中から、人間的なつながり、善が循環する善循環の輪を広げたいものだ、当初から思ってきた。私たちの支援が、子どもたちの心を温かくし、その子供たちがその思いを更に先に続けて行くような社会を目指したいと思ってきた。唐丹の卒業生で、釜石高校から大学にも行かずに警察官になった子どもがいた。震災の中で、警察官の行動を見て、自分もその後を追って恩返ししようと思ったのだという。被災した若者たちが「故郷に帰って復興に尽くしたい」と語る場面には、新聞やテレビ出しばしば耳にする。本当にうれしいことだ。そして、その善のみなもとになるわたしたち大人にも、こんなふうに輪が広がっているのだ。暖かい気持ちになる。

ラジオ、新聞などで広がった唐丹支援の輪、その網目の一つ一つになっている人たちは、日本中に散らばって住んでいて、善意の心は見えるが、微笑んでいる顔を見ることは、これまでほとんどなかった。しかし、「高館千枝子の巡礼の旅」、そしてそれにならった今回の「半田での昼食会」と、これからは顔の見える輪、微笑みの見える輪が、広がって行きそうな気がするし、広げなければならない。そんな思いにさせる、この日だった。

昼食会に、伊藤さん夫妻は私を車で半田まで送ってくれた。別れ際に奥さんが「少ないけれど唐丹支援に」と封筒を差し出した。家に帰って開けると、3万円も入っていた。決してお金持ちでない伊藤さんが、と思うと、涙が出てきた。唐丹の子どもたちは、こういう素敵な人たちに囲まれているのだ。

[東日本大震災 2011・3・11] を歌い継ぐ

♪♪♪...「鎮魂の歌」を歌おう...♪♪♪

作詞 千葉 隆男 作曲 太田代 政男

—参加登録募集(2020年まで)—

登録 Mail-Address : tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

参加者 10,000 人目標!

参加者 9,228 名
毎月末に更新予定
(2016・5・4 現在)

5月4日(水) 合唱団“全国ラ・チエーロ”代表 齊藤 保子

第22回 全国愛善歌奉納大会で、東日本大震災から5年の節目を迎え、全国から参加した180名の団員が「鎮魂の歌」を大合唱しました。

節分大祭の日(2/3)に、3/11 東日本大震災 5年の綾部本部における慰霊祭に際して復興に関する歌と大本の愛善歌をとの依頼があり、私の中で鎮魂の歌がちょうどぴったりふさわしいとの思いで、迷いなく即決しました。歌詞が強烈で選曲をやり直しになりそうにもなりながら、なんとかこぎ着けました。慰霊祭前夜は犠牲者とその家族の思いに本気で近づき、



何とも言い様のない切なさにお腹の中が振れるようでした。奉納大会にも東日本大震災 5年の特別プログラムが組まれることになり、これまた即決。この歌との強い縁を感じました。 齊藤 保子

☆NHK ラジオ深夜便明日への言葉 「世界へ広がれ鎮魂の歌」

2016年3月3日放送 <https://www.youtube.com/watch?v=o0s7ZZU9T8M>

☆ [楽譜] 「鎮魂の歌」日本語版 ([.pdf requiem-japanese へのリンク](#))

「鎮魂の歌」エスペラント版 ([.pdf requiem-esperanto へのリンク](#))

「鎮魂の歌」二部合唱譜 ([.pdf requiem-japanese-two-parts へのリンク](#))

「鎮魂の歌」ピアノ伴奏付き楽譜([.pdf requiem000 へのリンク](#))

☆ 初音ミクが歌う「鎮魂の歌」

日本語版 http://youtu.be/9inykwkxk_CU (YouTube)

エスペラント版 http://youtu.be/07MY6_22nww (YouTube)

☆ 登録と共に「鎮魂の歌」演奏者から届いた動画(2012年10月以降の資料から)

☆「鎮魂の歌」オカリナ演奏：庄子春治 http://www.youtube.com/watch?v=HpD_xHfmeA

☆サカイカラオケ教室「鎮魂の歌」：酒井清雄 <http://www.youtube.com/watch?v=SFvrPS5eslY>

☆「鎮魂の歌」カラオケ版：酒井清雄 <http://www.youtube.com/watch?v=TXYGr7Fj38A>

☆「鎮魂の歌」大正琴演奏：カナダ、Mary Hirtzel <http://youtu.be/XNQ0t4XHei8>

☆京都から“鎮魂の歌”届けます：嶋澤純子 <http://www.youtube.com/watch?v=r5avvAVG0IE>

2013年3月9日演奏：<http://www.youtube.com/watch?v=S3w7w5zvjv0>

2013年4月13日演奏：<http://www.youtube.com/watch?v=NN7DIQJCuxA>

☆「鎮魂の歌」2012年2月～3月のリレー演奏：牧野三男 <http://youtu.be/I8lVEFlzInE>

・男声合唱団コールM鎮魂の祈りコンサート <http://www.youtube.com/watch?v=DNXZ180uNgc>

☆USA ミシガン州フリモント Community choir：<http://www.youtube.com/watch?v=EPbmruiX3H8>

☆メリー・ハーツエル(カナダ在住)：英語歌詞版譜 [.pdf requiem_english_music2013_4_22](#)

☆第2回山岸ルツ子東日本大震災チャリティーコンサート（会場：カナダ バンクーバー クライスト・チ

ヤーチ大聖堂）<http://www.youtube.com/watch?v=BLHrQIYoKnY&feature=youtu.be>

☆東日本大震災復興支援コンサート「思い出を彩る心の歌」平塚中央公民館大ホール（代表：岩崎由紀子）

<http://youtu.be/GhgS8bQ8Nn4>

☆【GUMI】東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」：<https://www.youtube.com/watch?v=9IDmSeWG8Rc>

☆男声合唱団コールM第35回定期演奏会 指揮：太田代政男東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」

昭和8年三陸大津波「復興の歌」<http://www.youtube.com/watch?v=ifeCThRq-Is>

☆Megpoid English による「鎮魂の歌（エスペラント）制作：ROKMSAI <http://youtu.be/ubFqipTIFrg>

☆[GUMI] "Rekviemo" al la viktimoj de la Granda Tertremo en la Orienta Japanio

<http://www.nicovideo.jp/watch/sm21232471>

☆ 歌ソロサロン、第2回お披露目会：2013年8月2日 会場：Mount Olivet Lutheran Church, North Vancouver

歌：トニー古森・トランペット：前田卓哉・ピアノ：前田多枝

<http://www.youtube.com/watch?v=wa79Tf9lyFw>

☆3月16日に城陽市で開催されました“大正琴の祭典”での鎮魂の歌の模様をお送りいたします。

<http://www.youtube.com/watch?v=cKR4HcLtFyo>

☆アンサンブルコスモス -鎮魂の歌-2014/11/8

<https://www.youtube.com/watch?v=HgtwAoaDnUc>

☆アンサンブルコスモス -鎮魂の歌-2014/12/13

<https://www.youtube.com/watch?v=ohC6RnnTvG4>

☆「鎮魂の歌」釜石市唐丹町盛岩寺演奏、横浜演奏 牧野 三男 2015年7月28日

・ <http://youtu.be/vfiqSJchsdQ>（盛岩寺演奏）

・ <http://youtu.be/yjWkdUVgTUU>（横浜エスペラント会：日本語）

・ <http://youtu.be/axl0C60IiZk>（横浜エスペラント会：エスペラント語）

・ 3曲まとめたものは

<http://esperas.info/index.php?QBlog-20150727-2> に載せました。

☆「鎮魂の歌」Esperanto版“Rekviemo”

指揮：牧野三男 演奏：ハマロンド歌唱グループ

https://youtu.be/FYy_khGt_Xk

☆京都 歌声コスモス「鎮魂の歌」（2016年4月8日）

KinkoMusicSchool : <https://www.youtube.com/user/KinkoMusicSchool>

東日本大震災に思いを重ねる歌シリーズ

作詞：堀泰雄 作曲：山田哲夫 歌：前橋女声合唱団

1、**「唐丹の海から世界へ」** “De la maro de Tooni al la tuta mondo”

https://www.youtube.com/watch?v=oCf_c7okiQU

2、「私はもう泣かない」<https://www.youtube.com/watch?v=DrvpbbhFcBE>

3、「希望の飲むヨーグルト」<https://www.youtube.com/watch?v=PKnMcPOhNyU>

4、「一生懸命私は生きる」<https://www.youtube.com/watch?v=MMOPYDXwztQ>

5、4曲公開版のリンク：<https://www.youtube.com/channel/UCGdxMHtOaBmdTXUZMMCuKkg>